

この頃「BeReal」という写真を投稿する SNS が流行っている。学校でも多くの人が使っていて、通知音が鳴るとすぐにアプリを起動している。その中には授業中や部活中に撮っている人もいて、僕はその現場に幾度となく遭遇してきた。英語の授業中に鳴る独特の通知音と、周りのソワソワとした反応。部活中に「ビーリアルきた！」と誰かが言うと、顧問がいないのをいいことに、そこにいた 8 割の人間が写真を撮った。僕はそんな世界が好きじゃない。僕は「BeReal」を撮った後にもスマホをいじる後輩に、「スマホをいじることは練習じゃない」と言った。けれども彼らは、「別にいいやん」、「ストレッチしてたんです」などと、自分の行動を正当化する言葉や言い訳を発した。そんな彼らの言い分を聞いた僕は、呆れてこれ以上何も言えなかった。今の僕は、部活中に「BeReal」を撮る彼らを見ているだけだ。多くの人ができることは、ある時正解とみなされる。「赤信号、みんなで渡れば怖くない」のように。例にあげた彼らは、この状態を表した良い例だと思う。そしてこの状態は、とても良いとは言えないものだと思う。「赤信号」なのだから。授業中に撮るなんてことはもってのほかだ。そもそも、僕の学校では昼休みと放課後以外はスマホの電源はオフにしてカバンにしまうと定められている。なのに時々、授業中にバイブ音が聞こえるのはなぜだろうか。僕は今、学校のルールを変えようとしている。「休日の部活の時に、わざわざ制服で登校するのはめんどくさいし、暑い、寒い」という声が多く、僕自身もそう思っていたため、生徒会役員として、現状の「制服登校」を変えたいと思い、取り組んでいる。しかし、そこには大きな障壁があった。それはルールを守らない人がいるということだ。先生にルールを変えたいと相談すると、「まずルールを守らない人がいるからそこからやな」と言われてしまった。ルールを破ることが日常となっている人たちがいることで、いくら変えたいと言う人が多くても、変えられないのが現実なのだ。

社会に属する中で、僕たちはいくつものコミュニティに属している。学校の中で作られるグループもそのコミュニティのひとつだ。学校の中で禁止されていることがあったとしても、そのコミュニティにいる大半の人がそれを破っていれば、その小さなコミュニティの中ではそれがあたかも正しいかのように扱われる。その大きなコミュニティでの例が「BeReal」である。多く人は「BeReal」を「ビーリアル」と呼んでいるが、本当の読み方は「ビリアル」なのだ。周りの友達に「本当は『ビリアル』って読むの知ってる？」と聞いてみても、少なくとも僕の周りには知っている人はいなかった。いくら多くの人々が「BeReal」を「ビーリアル」と読んでいても、「ビーリアル」が「ビリアル」に成り変わって本来の読み方にならないように、多くの人々がルールを破っているからと、破ったルールが正解になることはない。

始めに例にあげた部活の後輩たちは、自分たちのやっていることが「赤信号」、つまりダメなことだと理解していると思う。理解していたからこそ自分たちを正当化する言葉を発したと思うのだ。でもその彼らの行動は、そこであるべきものではなかった。僕は休日の制

服登校を見直すにあたって、先生に「なんで制服登校になっているか考えてみよう」とも言われた。そこで、「その場での正しさを守ることで、よりよい正解を見つけられるかもしれない。正しさを守ることで、自分たちの望むことができるようになるかもしれない。」と感じた。望む世界にしたいのなら、今ある正解を見つめながら、新たな正解を探すことが必要かもしれない。